
不思議な猫の話。

大輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

不思議な猫の話。

【Nコード】

N4389B

【作者名】

大輝

【あらすじ】

猫は不思議な力を持っていると聞きます。何かを予知したり。そんな不思議で少し怖い猫の話です。

(前書き)

これは実際に体験した話を少しアレンジしたものです。
今も不思議で不思議でしょうがありません。

我が家には猫が一匹いる。飼っている訳でも無く、家上がり込んでは用意したキャットフードを食べ、ゴロゴロして、そのうちいつの間にか何処かに行ってしまう。

うちの家系では代々、必ず傍らに猫がいる。自分の産まれる前からずっと。

祖父母にも、家を引っ越す前にも、必ず猫が一匹いた。

偶然か必然か、現に今も家には猫がいる。

連れて来た訳でも無く、忽然と現れ、ただただそこにいて家族を癒す。

ある日、家族全員で出掛ける事になった。

勝手に上がられて糞でもされたらたまらないと、家のありとあらゆる隙間を塞いだ。家族総出で全て塞いだ――

つもりだったが、何故か猫は家の中にいた。

どこから入って来たんだと驚いていると、ずっと外へ出て行ってしまった。

また、一ヶ月位姿を見せない事もあった。

心配して捜していると、家の近くの路地裏にいた。

やっと見つけたと思い、近付くと暗闇へスツといなくなってしまうた。

それを最後に猫は姿を見せなくなった。

深夜、何故か目を覚まして居間に行くと、カリカリと雨戸をひっかく音がする。

あの猫が帰ってきたんだ!と雨戸を開けると何もいない。

確かに音はしていた。寝惚けていたのかと戻ろうとすると、またカリカリとひっかく音がする。

不思議に思いつつ雨戸を開けるとやっぱり何もいない。

少し怖くなって、急いで雨戸を閉め部屋に戻ろうと振り向くと、目の前で

「ニャアー」

と、あの猫の鳴き声が出た。

今、目の前には何も無い。

辺りを見回してもいつもの居間だ。

そしてもう一度

「ニャアー」

と、今度は耳のすぐ近くで鳴かれたかのように、はっきり聞こえた。

自分は死にも狂いで部屋に戻り、ベッドに飛込んだ。

静まりかえった狭い部屋の中で、ヒタヒタと猫の歩く音が聞こえる。鍵は閉めた、入って来れる窓や隙間もこの部屋には無い。

祈る思いで固まっていると、もう一声

「ニャアー」

とはっきり鳴き、足音はしなくなった。

朝になり、一睡も出来ぬままベッドから起きて部屋を見て驚愕した。辺り一面猫の足跡だらけ。雨戸から続き、居間を通り、この部屋へ、足跡は続いていた。

あの猫が最期の別れに来たのか……と亡骸が見付かったと知らせを聞いて思った。

今も家には猫がいる。

忽然と現れては家族の一員となっている猫が……………。

(後書き)

動物って不思議ですね。これからも少しずつ動物の話でも書いていこうかなと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4389b/>

不思議な猫の話。

2010年12月31日04時08分発行